

提 言 書

上田市の社会教育の充実を目指して

～ コミュニティスクール・地域学校協働活動の推進、
公民館、図書館活動の更なる充実のために ～

令和4年12月

上田市社会教育委員会議

目 次

はじめに	1
I 現状と課題分析	2
II 課題に対する今後の方向性について（提言）	
1 コミュニティスクール、地域学校協働活動の推進について	3
(1) コミュニティスクール、地域学校協働活動の有機的な推進	
(2) 地域コーディネーターの育成	
2 地域住民とつながる公民館広報のあり方について	4
(1) 多様な市民の声が反映される双方向的なメディアをめざす	
(2) 広報における地域の独自性を発揮	
(3) 広報におけるデジタルとアナログの融合	
3 デジタル化社会における市民のための図書館づくりについて	5
(1) 全ての人に平等に図書が行き渡り活用される図書館づくりを実現	
(2) 地域のアイデンティティを確立する図書館づくり	
(3) デジタル化図書館を支える人材の登用と育成	
おわりに	6
<資料>	7
○提言に関する取組経過	
○上田市社会教育委員名簿	

【はじめに】

上田市社会教育委員会議は、これまで第6期、7期の提言において「地域とともにある学校づくり」（地域学校協働活動）の推進を柱に、7期においては地域住民の生涯学習の拠点である公民館、図書館活動の充実についても併せて提言を行ってまいりました。

今期、第8期上田市社会教育委員会議の提言に当たっては、委員それぞれが地域において人とのつながりを大事にしながら主体的、日常的に地域活動に携わってきた経験と見識を活かすとともに、上田市・上小地区・長野県教育委員会主催の各種研修会等へ参加し、学習を重ねるなかで、現在の社会教育を取り巻く国、県の動向や現状など多くのことを学び、提言に関する取組に活かしてまいりました。

新型コロナウイルスの感染収束の見通しが立たないなか、社会全体として前に進もうという力強さがあり明るい兆しを感じられますが、今なお続くコロナ禍による社会活動の制約が地域活動に暗い影を落としています。また他方で、第四次産業革命がもたらすデジタル化社会の到来によりコミュニケーションが多様化するなど、社会情勢の目まぐるしい変化に対応していかなければなりません。

このような状況の中で、目指すべき上田市の社会教育の方向性について、会議で討議を重ね、今期はコミュニティスクール・地域学校協働活動の推進、地域住民の重要な学びの拠点である公民館・図書館について、日頃の活動を評価しつつさらなる充実・発展を願って提言をまとめました。

I 現状と課題分析

1 コミュニティスクール、地域学校協働活動について

上田市は平成28年度に市内全ての小中学校にコミュニティスクールが導入され、現在活動が進められています。この間、市の統括コーディネーターも設置され推進体制も大きく前進しました。また一方で、現在、コロナ禍により活動の停滞を余儀なくされています。

今後は、その対応策を踏まえながら、コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的な推進によって、「地域とともにある学校づくり」、「学校を核とした地域づくり」を進め、子どもたちの成長を地域全体で支える社会の実現を目指さなければなりません。その取組を推進するために地域コーディネーターの育成と連携が求められています。

2 公民館の広報について

公民館は、地域住民の多くが生活のなかで何らかの関りを持っています。とりわけ、近年全国的に自然災害が多発するなかで、災害時での地域の避難場所としての役割が増し、住民の命を守る重要な地域の拠点となっています。

地域の核であり地域に密着した公民館だからこそ人々の絆を紡ぎ、住民主体で取り組む社会福祉の増進、安心・安全な地域社会を構築することができると考えます。そのための公民館の取組のひとつとして、地域住民に対する丁寧な広報活動が求められています。

3 デジタル化社会における図書館について

現在、第二次上田市図書館基本構想のもとで市民の読書活動が推進されています。

この基本構想では「市民が必要とする生涯学習や課題解決を支援する図書館を目指す必要がある。」と述べており、現在、第四次産業革命によるAIやIoT、ビッグデータなど技術革新が進むなかで、現代の急速に進展するデジタル化社会に対応した「市民のための図書館づくり」が求められています。

II 課題に対する今後の方向性について（提言）

1 コミュニティスクール、地域学校協働活動の推進について

（1）コミュニティスクール、地域学校協働活動の有機的な推進

コミュニティスクールが学校・地域双方にとって、ともに意義のある関係になっていくことが望ましいと考えています。

現在、中心となって活躍されているシニア世代に加え、子どもの親世代の参加を促しNPO、企業、社会福祉協議会等、地域が幅広く連携し、コミュニティスクールとしての「地域とともにある学校づくり」、地域学校協働活動としての「学校を核にした地域づくり」を推進することが望まれます。

将来における展望として、高齢者・障がいのある方・社会的に孤立している方・生きるうえでの困難さや生きづらさを感じている方など様々な支援を必要とする方々が、子どもを真ん中にしながら多様性を尊重して交流し合う視点も重要であると考えます。

（2）地域コーディネーターの育成

コミュニティスクールの推進にあたって地域コーディネーターの存在は大変重要です。コーディネーターが学校と地域を結ぶことでよりよい活動が生まれています。すでにコーディネーター育成の観点から様々な取り組みがなされていますが、さらに推進していく必要があると考えます。

現在、活躍いただいている地域コーディネーターや、関心のある方、公民館職員等、関係者の交流を深め、上田市のコミュニティスクール推進における一体感を醸成するなかで、研鑽や励みに繋げることが望まれます。また、地域コーディネーターの人材の発掘に当たっては、多様な組織と連携し、多くの市民の皆さんに関わっていただく仕組みづくりに取り組む必要があると思います。

2 地域住民とつながる公民館広報のあり方について

(1) 多様な市民の声が反映される双方向的なメディアを目指す

広報の核となる「公民館だより」は、市民と公民館をつなぐ重要なメディアであることは言うまでもありません。それは単に公民館側からの市民への一方的な情報提供ツールではなく、多様な市民の声が反映される双方向的なメディアでなければならないと考えます。講座参加者や公民館利用者、地域住民の声が掲載されることで、生きて「伝わる」ものとなり、「顔が見える記事」となります。これは、市民の公民館活動への関心を広げることにもつながり、住民相互の連携にも寄与するものではないでしょうか。

(2) 広報における地域の独自性を発揮

現在、上田市では地域内分権が進められ、地域独自のまちづくりが進められています。上田市の公民館は、9館が独立し地域性を持った公民館運営に取り組んでおり、地域の独自性を発揮した公民館活動が充実することは、広報における地域の独自性も発揮されることとなります。公民館に対する地域住民の関心が広がり、自ずと「公民館だより」発行の意義が高まります。公民館広報の地域ニーズが高まれば、「公民館だより」全戸配布の復活に繋がることも期待できます。

(3) 広報におけるデジタルとアナログの融合

多くの市民に不公平感なく情報を届けることは大切なことです。デジタル化社会が急速に進展し、デジタルのコミュニケーションが浸透する中で、ICT（情報通信技術）など時代にあったツールの活用は不可欠です。一方、デジタルだけに頼ったコミュニケーション手段では住民全体への情報伝達に差が出ることもあり、住民に愛着を持ってもらえる紙メディアのようなアナログ手段との融合が必要ではないでしょうか。

3 デジタル化社会における市民のための図書館づくりについて

(1) 全ての人に平等に図書が行き渡り活用される図書館づくりを実現

学校教育の現場においてもデジタル教科書が使われはじめられるように、デジタル化が進む日常生活がやってきます。従来の人や紙を介した物理的図書館サービスだけでは市民生活の多様性に応えていくことは困難となります。全ての人に対して平等に図書が行き渡り活用される図書館が求められることとなります。

国立国会図書館では図書のデジタル化を進め、県立長野図書館においては、市町村と連携して電子図書の貸し出し（「デジとしょ信州」）の取組が始まっています。そのような取組を充実していくことを求めます。

(2) 地域のアイデンティティを確立する図書館づくり

それぞれの地域にある特徴のある貴重な書籍や地域資料、図書のデジタル化を進め、市民が必要とする生涯学習や課題解決を支援する図書館づくりの推進が求められます。そのためには、電子図書館について積極的な普及を促すとともに、市民が望む図書館像についての声を聞くことは欠かせません。

(3) デジタル化図書館を支える人材の登用と育成

公共図書館のデジタル化に対応したICTの活用能力や知的財産権に関わる知識等、新たに求められるスキルや知識を持つ人の配置や司書の育成は欠かすことはできません。その環境づくりに取り組まれることを望みます。

【おわりに】

コロナ禍も3年目を迎え未だに収束の兆しは見ておらず、社会全体が多大な影響を受ける中で、学校教育、社会教育において試行錯誤をしながら、日々、努力を重ね推進をしてきております。様々な課題を抱える社会にあっても、子どもたちが希望と誇りを持ち未来を信じて進む社会であってほしいと強く願います。

上田市の社会教育の取組の更なる充実が地域の力となることを期待し、上田市の教育のより一層の発展を願って提言いたします。

<資 料>

○第8期上田市社会教育委員の提言に関する取組の経過

- 令和4年 5月23日(月) 第4回社会教育委員会議
・教育委員会への提言
- 6月20日(月) 第5回社会教育委員会議
・提言の法的位置付けの確認
・提言書提出の経過等
・提言内容検討の進め方等に関する意見交換
- 8月 4日(木) 第6回社会教育委員会議
・第7期社会教育委員会提言内容の検証
・提言テーマの検討
・提言内容検討の進め方(グループによる調査研究)
- 8月25日(木) 社会教育委員学習会
・各提言テーマによるグループワーク
・提言内容の検討経過報告(中間)
- 【Aグループ】コミュニティスクール(CS)、地域学校協働活動の推進
について
- 【Bグループ】地域住民と公民館がつながる広報のあり方について
- 【Cグループ】デジタル化社会における市民のための図書館づくり
について
- 8月26日(金) 各グループによる打合せ
- ～9月28日(水) ・提言項目及び内容の討議
- 10月 5日(水) 第7回社会教育委員会議
・各グループ提言内容の検討経過報告
・各グループ提言内容に係る意見交換、課題抽出
・提言書提出に向けたスケジュールの確認
- 10月 6日(木) 各グループによる打合せ
- ～11月 8日(火) ・意見交換により抽出された課題解決に向けた協議
- 11月14日(月) 第8回社会教育委員会議
・提言書(案)の検討(最終)
・提言書提出に係るスケジュール・方法等の確認
- 12月16日(金) 第8期社会教育委員会提言書提出

○第8期上田市社会教育委員名簿

(敬称略)

役職	氏名	役職	期数
代表	竹花 のり子	丸子中央小学校CSコーディネーター	4期
代表代理	宮下 俊哉	元真田の郷まちづくり推進会議会長 他	1期
委員	小山 ひとみ	住みよい武石をつくる会	2期
委員	清水 洋幸	(一社)あそび心Baseアフタフバーバン信州理事長	2期
委員	滝澤 共子	上田市社会福祉協議会	2期
委員	西澤 むめ子	塩田平文化財保護協会 他	2期
委員	上野 勝裕	北小学校校長	1期
委員	高田 正哉	元上田女子短期大学専任講師	1期
委員	小平 千文	上田小県近現代史研究会会長 他	1期
委員	山崎 順子	元西部公民館運営審議会会長	1期